

当文教厚生委員会に付託された案件については、9月10日及び13日は午前9時30分から、19日は午後1時から、いずれも委員全員出席のもと委員会室において、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

初めに、一般会計について申し上げます。

福祉部所管分では、

平成29年度の地域福祉課所管事業において、最も力を入れた事業とその成果、また、今年度に残した課題をどのように捉えているか。とに対し、

地域福祉推進事業で「ふくし井戸端会議」を、地域と行政が協働し進めていくことに力を注ぎました。住民が地域の問題を主体に話し合うことで、地域と行政のコミュニケーションがより深まりました。今年度は、さらに推進していきます。とのこと。

ふくし井戸端会議について、昨年度の決算審査では、参加者の固定化が課題で開催方法に工夫が必要と説明しているが、その後どのように改善したか。とに対し、

平日の昼間に開催していた会議を土日や夏休みに開催するなど、普段は仕事で来られない方や学生の方の参加を得ることができました。とのこと。

にじいろサポーター養成講座について、28年度の受講者が減少した結果を受け、29年度ふくし井戸端会議の場で、地域で見守り活動をされている方を対象に実施したとのことだが、その理由は。とに対し、

にじいろサポーターを地域における「相談役」と位置付け、ふくし井戸端会議の参加者やふれあい施設の職員など、地域で見守り活動をしている方に、相談に対応のスキルを身につけていただき、身近な場所で気軽に相談できる体制を整備したいと考えたためです。とのこと。

老人クラブ活動助成事業について、昨年度は会員数の減少と担い手不足が課題であると説明されたが、それに対しどう取り組んだか。とに対し、

会員数が減少しても、会議や事業は減らず、役員が高齢化していることで一人一人の負担が増しており、担い手不足への悪循環を起こしています。昨年度は現状の課題を明確にし、今年度は研修会の開催や問題意識を共有することで、事業の整理とクラブのスリム化を図っていきます。とのこと。

高齢者を対象とした各施策の参加人数が減少している状況をどう捉え、今後どう取り組んでいくのか。とに対し、

社会情勢の変化に高齢者施策の実態が追いついていない点に課題があると感じています。組織の維持自体が目的ではなく、高齢者の生きがいを満たすとともに、それぞれ地域の実情に応じた運営形態に変化させていくことが必要であることから、それに向けて取り組んでいきます。とのこと。

民生委員・児童委員活動事業について、半田市の定数と現員数、その活動状況はどのようなものであるのか。とに対し、

委員の定数は167人で欠員は生じていません。その活動状況は、生活保護世帯への連絡や現況把握、「こんにちは赤ちゃん訪問」など、様々な活動を行っていただいています。とのこと。でした。

次に、健康子ども部所管分では、

保育園の待機児童対策について、昨年度、受け入れの定員を増やすなどの対策は行ったか。とに対し、

のぞみが丘保育園の移転新築の際に0から2才児の低年齢児の定員が15名拡大しましたが、それを上回る入園希望があり17名が待機児童となりました。そのため、今年度は公立保育園で0歳児6名、1歳児15名の定員を拡大しています。また31年4月には、民間の小規模保育所2か所が開設される予定です。とのこと。

第2次スポーツ推進計画の見直し時期と3年に一度のアンケートの実施時期がずれているが、アンケートの結果を分析し見直しの内容に反映すべきではないか。とに対し、

3年に一度行っているアンケート調査は市民のスポーツへの意識や市のス

スポーツ事業への要望を聞き取るためのもので、見直しを目的としているものではないです。計画策定に必要なアンケートは別に実施しています。とのこと。

ひとり親家庭等自立支援対策事業について、昨年度の実績が低い、またはない事業に対しどのように考えているのか。とに対し、

例えば、自立支援教育訓練給付金事業について、給付に至らず実績は0名となりましたが、実際には6名から相談を受けています。他の事業においても相談はあるものの、家庭の状況など様々な要因により、実績としてあがってこない実情もありますが、ひとり親家庭への必要な支援であり、継続実施していきたいと考えています。とのこと。

要保護児童対策事業について、半田市の要保護児童の状況と特徴、また、虐待する側の傾向はどのようなものか。とに対し、

昨年度の虐待の通告件数は、前年度と比較すると若干減少したものの、ここ5年間では2番目に多い件数となり、これは市民の虐待に対する意識の高まりによるものと考えています。半田市の特徴として、この2年は「ネグレクト」の割合が高くなっています。また、虐待する側の傾向としては、実母が高い割合を占めています。とのこと。

健康づくり推進事業について、保健センターとスポーツ課との連携など、市全体の施策として一体的な取り組みを行ったか。とに対し、

スポーツ課のイベントに保健センターが出展し、啓発活動を行ったり、七本木池公園の整備の際には保健センターから健康づくりに役立つ器具や遊具の設置を要望するなど、連携を図っています。今後も部や課を超えた一体的な取り組みにより、市民の健康づくりに努めていきます。とのこと。

次に、教育部所管分では、

学校生活支援事業において、課題をどう捉え、どう取り組んだか。とに対し、

子どもの人数が減少している半面、特別な支援を要する子どもは増えており、障がいの種類が多様化していることから、市では個別の指導計画を幼児期から作成し、小中学校へと引き継ぎ、関係者が情報を共有して、それぞれの個に応じた支援体制に取り組んでいます。とのこと。

スクールカウンセラー派遣事業について、小中学校への追加派遣を行った成果をどう捉えているか。とに対し、

スクールカウンセラーへの教員からの相談が増えています。専門家に相談できる体制が整い、教員から子どもたちへの支援の強化ができたことが成果のひとつと認識しています。とのこと。

適応指導教室について、公民館や図書館での受け入れが2年目を迎えたがその後どうなっているか。とに対し、

図書館から学校に戻ることができた事例や公民館からフリースクールに行くようになった事例もあり、地域の施設で見守っていただきながら子供たちの支援に努めています。とのこと。

旧中埜家住宅保存管理事業について、改修を終えて特別公開を実施したようだが、十分な活用ができていると考えているのか。とに対し、

特別公開を実施しましたが、今後の中埜家住宅の保存と活用について、さらに検討していくため、今年度、保存活用検討委員会を立ち上げたところです。委員会でご意見をいただきながら有効な活用方法を検討、実施していきます。とのことでした。

次に、国民健康保険事業特別会計について申し上げます。

特定健診や特定保健指導の受診率向上のために、どう取り組んだか。とに対し、

特定健診については未受診者への郵送や電話による勧奨のほか、保健センターと連携し、がん検診も併せて受診できる機会を設けました。また、今年度から特定健診時に初回の面接が同時に受けられることになり、住民の健診時の負担を軽減することで受診のしやすい環境づくりに努めています。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と4件の特別会計を採決しました。

平成29年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件、

平成29年度半田市学校給食特別会計歳入歳出決算、
平成29年度半田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算、
平成29年度半田市介護保険事業特別会計歳入歳出決算、
平成29年度半田市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算、の5会計
については、それぞれ採決した結果、いずれも委員全員をもって認定するこ
とに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。